

その他有価証券評価差額

前年度末より977百万円増加し、2,328百万円となりました。

【その他有価証券評価差額】

有価証券は「金融商品に係る会計基準」により、「売買目的有価証券」「満期保有目的債券」「子会社・関連会社株式」「その他有価証券」に区分します。「その他有価証券評価差額」とは、「その他有価証券」の時価と取得原価との差額のことをいいます。「その他有価証券」は貸借対照表上では時価で計上されますが、時価と取得原価との差額（評価差額）は損益計算書には計上されず、税金相当分を控除した上で「純資産の部」に直接計上されます。

不良債権の状況

「リスク管理債権」「債務者区分に基づいて区分された債権」とも該当する債権はありません。

【リスク管理債権】

貸付金のうち、元本や利息の回収の可能性に注意を要する（返済状況が正常ではない）債権を示し、破綻先債権、延滞債権、3か月以上延滞債権、貸付条件緩和債権の4つに分けられています。

【債務者区分に基づいて区分された債権】

貸付金や貸付有価証券等の債権を債務者の財政状態や経営成績等をもとに、破産更生債権およびこれらに準ずる債権、危険債権、要管理債権、正常債権の4つに区分したものです。

事業の概況

2015年度の各種概況

事業の内容

ソニー損保は、1999年秋の開業以来、ウェブサイトやコンタクトセンターを通じてお客様に商品やサービスを直接提供するダイレクト型のビジネスモデルをベースに損害保険事業を展開しています。主な取扱商品は、充実した補償を“走る分だけ”の合理的な保険料で提供するリスク細分型の自動車保険とガン保障に重点をおいた医療保険であり、お客様とのダイレクトな関係を大切にしながら、商品やサービス品質の改善に継続的に取り組んでいます。

市場環境とソニー損保の取組み

2015年度における日本経済は、政府の経済政策や日本銀行の金融緩和策を背景に、全体では緩やかな回復基調が続いているものの、新興国等の経済成長に対する減速懸念などから先行きが不透明な状況が続きました。損害保険業界においては、売上高にあたる収入保険料は前年度を上回り、主力の自動車保険においても、これまでの保険料改定等の効果などから、収入保険料は堅調に推移しました。

こうした状況のなか、ソニー損保は引続き自動車保険や医療保険を中心とする事業展開に注力した結果、堅調な成長を持続することができました。

2015年度の主な取組みとして、サービス面では、お客様からのお問合せ・契約手続など、幅広いサポート業務を担うカスタマーセンターにおいて、2015年7月に、熊本県熊本市に当社としては3カ所目となるコンタクトセンターを開設するなど、応答力の強化とサービス品質の一層の向上を図りました。



熊本コンタクトセンター執務エリア

また、近年増加が顕著なスマートフォンユーザー向けのサービスとして、専用アプリ「トラブルナビ」の機能強化を展開するなど、各種サービス・機能の拡充に努めました。さらに、お客様の事故対応を担う損害サービスにおいては、お客様が安心して当社に事故解決をお任せいただけるよう、スピーディかつ丁寧な対応の推進など、サービス品質の向上に努めてきました。ソニー損保のサービスについては、外部機関による顧客満足度調査において、業界トップレベルの高い評価をいただいています。



スマートフォン専用アプリ「トラブルナビ」の機能強化

マーケティング面では、引続きテレビコマーシャルやインターネット広告を積極的に展開しました。2015年9月からは自動車保険の新しいイメージキャラクターとして、新人女優の唐田(からた)えりかさんを起用し、「早く知らせたい」篇・「授業参観」篇・「父の口癖」篇・「公園のコーラス」篇とさまざまなバージョンのCMの放映を開始することで、ソニー損保の商品・サービスの特長をお客様にわかりやすくお伝えしています。

今後も「“Feel the Difference”～この違いが、保険を変えていく。～」というスローガンのもと、お客様に「ソニー損保ならではの」高品質な商品・サービスを提供していくことで、顧客価値のさらなる向上を図っていきます。

取組みの成果

以上のような施策を通じて事業活動を展開した結果、保険引受収益95,612百万円、資産運用収益1,263百万円等を合計した経常収益は、前年度に比べ3,883百万円増加し、96,905百万円となりました。

一方、保険引受費用67,798百万円、営業費及び一般管理費24,418百万円等を合計した経常費用は、前年度に比べ3,412百万円増加し、92,225百万円となりました。

この結果、経常利益は4,680百万円と、前年度に比べ470百万円増加しました。これから固定資産処分損864百万円を含む特別損失890百万円、法人税等合計1,203百万円を控除した当期純利益は、前年度に比べ353百万円増加し、2,586百万円となりました。

■保険引受の概況

保険引受の概況については、主力の自動車保険の増収を主因として、正味収入保険料は前年度に比べ4.2%増加し95,549百万円となりました。

一方、正味支払保険金は、前年度に比べ4.6%増加の48,111百万円となり、正味損害率は前年度より0.2ポイント上昇の57.8%となりました。

また、正味事業費率は広告宣伝費の増加もあり、前年度より0.4ポイント上昇の27.1%となりました。保険引受利益は、保険料の増収に加え、事故率低下により支払備金繰入額が減少したことから前年度に比べ426百万円増加し、3,470百万円となりました。

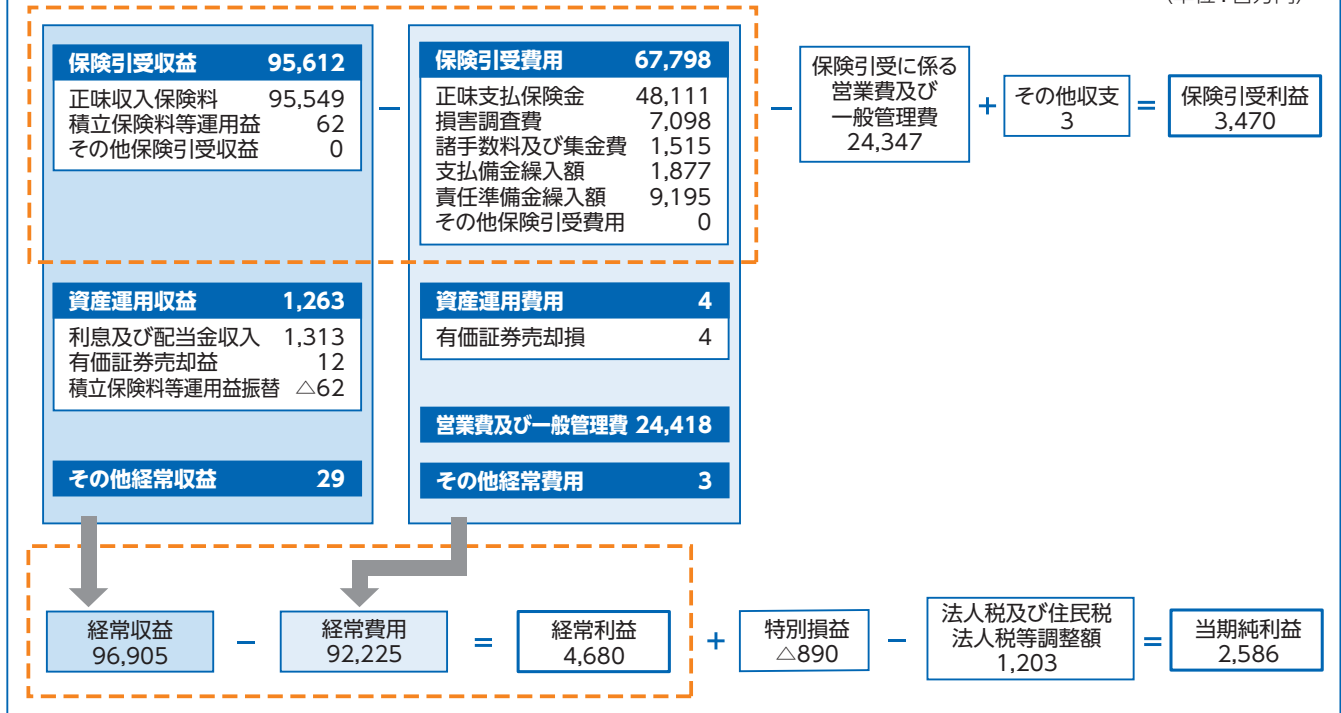
■資産運用の概況

当年度期末の総資産は前年度末に比べ14,404百万円増加して172,323百万円となりました。

このうち有価証券などの運用資産は前年度末に比べ13,063百万円増加して135,839百万円となり、利息及び配当金収入は1,313百万円となりました。

決算のしくみ[2015年度]

(単位:百万円)



ソニー損保の中長期的課題

ソニー損保の中長期的な課題は以下のとおりです。これらの取組みを通じて引続き業務品質の向上に努めるとともに、企業価値の最大化に注力し、お客様から信頼されるダイレクト保険会社を目指します。

〈中長期的な課題〉

- 長期安定収益確保に向けた、自動車保険以外の種目拡大
- 自動車保険の商品力強化と将来に向けた対応
- 顧客価値最大化によるCX(カスタマーエクスペリエンス)の向上
- 成長を支えるIT基盤の整備およびリスク管理の遂行
- 法令等遵守、顧客保護等に向けた管理態勢の強化

当社においては、インターネット経由での契約の比重が高く、ダイレクト保険会社というビジネスの特性上からも、ITの重要性が高くなっています。その重要性に鑑み、システムリスクを低減させる取組みを進め、システム開発品質の確保やシステム基盤の整備を図ることで、業容の拡大、業務効率の向上、安定的事業継続を支える強固なIT基盤の構築に努めます。

さらに、当社はソニーフィナンシャルグループの一員として、今後ともソニー生命保険株式会社、ソニー銀行株式会社との連携強化に努め、お客様のニーズに合致したサービスを提供できるよう努めます。

■ ダイレクト保険会社の自動車保険市場におけるシェア

2015年度の業界全体の自動車保険の保険料収入は前年度を上回りましたが、将来的な日本の自動車保有台数は人口減少や若年層の車離れなどにより漸減する見通しであり、市場環境は厳しい状況といえます。加えて、昨今は複数の保険会社がテレマティクス保険の研究・導入を進めていることや、将来の自動運転車の実用化に向けた官民の取組みが加速していることなど、自動車保険を取り巻く環境自体がこれまでにないスピードで大きく変化することも予想されます。

こうした環境において、ソニー損保を含むダイレクト型損害保険会社(ダイレクト保険会社)は、大手社と比較して割安な保険料体系がお客様に支持され、各社の積極的な広告活動による認知度の高まりもあって保険料収入は順調に増加しており、ダイレクト保険会社全体の自動車保険市場におけるシェアは年々拡大しています。2016年3月末時点で、国内の自動車保険市場の保険料収入の約9割は、代理店経由の販売が主体の大手損害保険会社(大手社)によるものですが、今後もお客様の低価格志向は続くと思定されるため、ダイレクト保険会社全体の市場シェアのさらなる拡大が見込まれます。一方でダイレクト保険会社各社においても、新規参入社を中心に低価格戦略や広告投資の増加などが続いており、ダイレクト保険会社間の競争もより一層厳しくなることが想定されます。

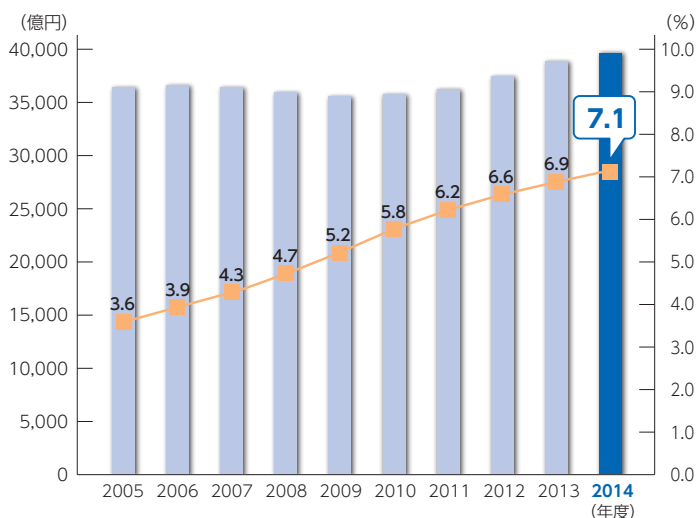
■ 自動車保険の保有契約件数

ソニー損保は、ダイレクト自動車保険市場において、2002年度に元受正味保険料No.1(*2)となって以来、日本国内のダイレクト自動車保険市場をリードする会社として存在感を強めてきました。2015年度も保険料収入が順調に増加し、収益も拡大しています。

保有契約件数も自動車保険を中心に増加し、2016年3月末の自動車保険の保有契約件数は163万件、自動車保険とガン重点医療保険の合算では179万件となりました。

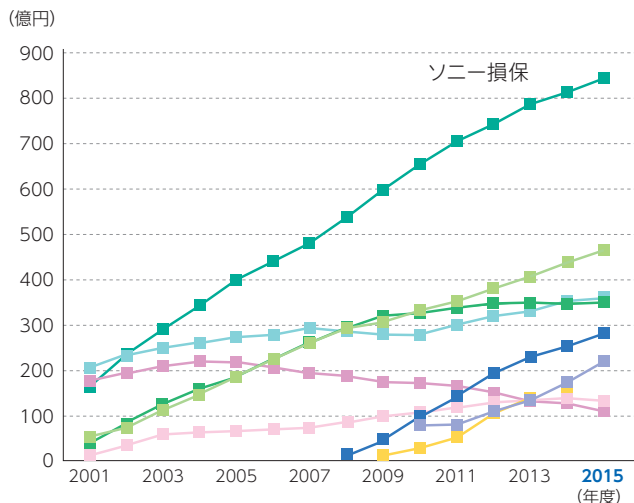
- (*1)ダイレクト保険会社とは、各年度末時点で自動車保険を主にダイレクトで販売している損害保険会社を指します。
- (*2)2002年度末の時点で自動車保険を主にダイレクトで販売している損害保険会社の自動車保険料収入より、ソニー損保が調査したものです。
- (*3)グラフは、各社の公表資料などから、ソニー損保が作成しています。なお、2015年度については、2016年6月14日までに公表された数値をもとに表示しています。
- (*4)保有契約件数は、正味収入保険料の98%をしめる自動車保険およびガン重点医療保険の合算数値です。

自動車保険市場と主なダイレクト保険会社のシェア(*1)(*3)



【左軸】総元受正味保険料(損害保険会社全社合計値で、自動車保険市場を示す。)
【右軸】主なダイレクト保険会社のシェア

主なダイレクト保険会社の自動車保険元受正味保険料の推移(*1)(*3)



ソニー損保の保有契約件数の推移(*4)

